

フリーランスの@がSUN SUN
 川崎美紀の
 SMILE通信
 きょうも
おもてなし
日和



Vol. 8 **実体験から学び得るもの**

つけて視野が狭くなる体験をします。加齢で白内障が進むと視野が狭くなったり、部分的に見えなくなったりと視界が限られてきます。その狭い視野で、手にはグローブ(手袋)をはめて小銭を支払うことは想像以上に難しいことです。

また、杖(つえ)をついて歩いてみます。膝や肘の動きを制限して高齢者の動きに近づけると、ちょっとした段差も怖いことを知ります。日常のなかで高齢者の動き方を見て知っているつもりでも、自分で体験してみるとその難しさがよくわかります。

そして、妊婦体験では赤ちゃんの重さのおもりをお腹に着用してみます。ベストのように着る仕様になっているので肩から吊り下げる感じと

高校の授業で、高齢者体験や妊婦体験を行っていることを知りました。

10代の若い人たちにとってはまだ先の話なので知識として学んでいるのかと思ったら、けっこう身近な問題として取り組んでいることがわかりました。

生徒たちの未来に種をまく「体験授業」

先日、埼玉県内の公立高校へ出前授業に行きました。私は金銭基礎教育プログラム「Money Connection®」(マネーコネクション)の認定講師として、ときどき高校生や大学生に「お

金と仕事」の話をしています。お金がすべてではないけれど、現実的に考えてお金がないと生活できないのも事実、という話をします。

今回、そのマネコネは「家庭基礎」の教科のなかの生活設計という単元での授業でした。教科名は変わりましたが、昔でいう「家庭科」で、担当している後藤先生はとても熱心な先生です。もちろん男子も学びます。生徒たちはマネコネの授業の前後の時間に、高齢者体験や妊婦体験、赤ちゃん用のお風呂に入れる沐浴(もくよく)のさせ方など赤ちゃんの扱い方も学んでいました。

高齢者体験は、特殊なゴーグルを

なり、ズシリと重みを感じます。体験して初めてわかること、まさに身をもって知る実体験は貴重です。

こうした体験型の学習を行っている先生の視線は、生徒たちの未来に向けられています。「勉強だけ頑張ればいいわけではない。生きていくための学びを知ってほしい」と後藤先生はおっしゃいます。

生徒の人生は高校卒業後もずっと続いていく、生徒一人ひとりにその

人生を生き抜く力の「素(もと)」、あるいは「種(たね)」とでもいうようなものをしっかりと身につけてもらいたいと思っているからです。

体験を生かす試みは 実際の社会においても

体験型の学習といえば、子どもに職業体験をさせるキツザニアが有名です。キツザニアは子ども向けですが、コンセプトは同じです。



知らない職業には就職しにくい。企業が自分たちの仕事を若い人たちに知ってもらい、体験してもらえば、記憶に鮮明に刷り込むことができます。

多くの企業がスポンサーとして名乗りをあげる理由がわかります。ビルメンもガラス清掃の体験を行っていましたね。

実際の社会においても、体験を実務に生かす試みが広がっています。清掃スタッフはもとよりオフィスビルや企業の受付、警備員、コンサートホールのスタッフにとっては、日々の業務に直結します。

さまざまな企業においてサービス介助やユニバーサルマナーという呼び方で、高齢者や妊婦に加えて発達も含めた障がいのある人への対応の研修を行っています。

私自身、ある警備会社で行われた体験学習に参加したことがあります。印象的だったのは、車椅子の扱い方でした。段差を越えるとき、がちりした男性警備員が力まかせに車椅子を引き上げようとしてもうまくいかず、引くのではなくちよつとしたコツで押すと嘘のようにすんなりと持ち上げることができた体験をしました。実際にやってみないとわからないことでした。体験学習の効果を知りました。

ロボットにはない 人間の優しさと眼差し

高齢化社会が進むと、ますます介護スタッフが不足してきます。若いうちから介護の体験をしていくことはとても大切なことだと思います。

以前家族がお世話になったところでは、スタッフの皆さんが明るく元気で、頑張っている姿をよく目にし



イラスト★さきさきとみ (<http://blog.goo.ne.jp/satomi343>)

ていました。特に粗相(そそう)の後処理など決して楽しい仕事ではないのに、嫌な顔をせずしてくれる。本当に感謝しかありません。

あるとき思わず「どうしてそんなに普通にしてもらえるのですか? どんな教育を受けるとそんなふうにできるのでしょうか?」と聞いたことがあります。

ベテランのスタッフさんは「最初の体験が肝心ですね」と打ち明けてくれました。初めて粗相の後処理をしたときの感触で、その後が決まることが多い。

「辛くてしんどい」と感じるとその後は続かないけれど、「思ったほどではない」と思えると意外と続けられるよ、とあつけらかんと話してくれました。そういう明るさに救われる人は多いのです。

介護職を選ぶ人はもともと優しい人が多いのも事実だと思います。優

しい人が優しくいられる仕事環境であってほしい、と願わずにはられません。

今後ますます働き手が少なくなっていく日本では、人に代わってロボットが活躍する日も遠くないと思います。ロボットとも上手に付き合えるといいですね。

ロボットが得意なところは思い切って任せてしまう選択もあり、です。だからこそ、人でなくてはできないこと、人が得意とするところは絶対譲ってはいけません。

相手の気持ちを推し量ることや慮(おもんばか)ること、共感ができること、そつと手を添えるだけの思いやり、体温が伝える優しさなど。この日の、ゴーグルをつけて“見えずらさ体験中”の仲間の手を引いている高校生の、真剣な眼差しが忘れられません。

川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー 研修講師 <http://www.officeriver.biz>
 国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンクス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。今年度、ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当している。

